

小石廬日誌

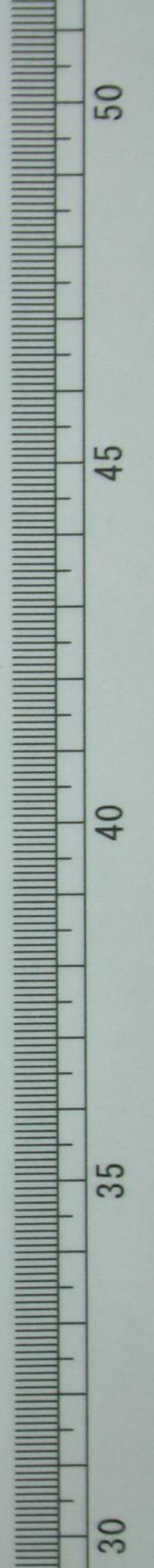
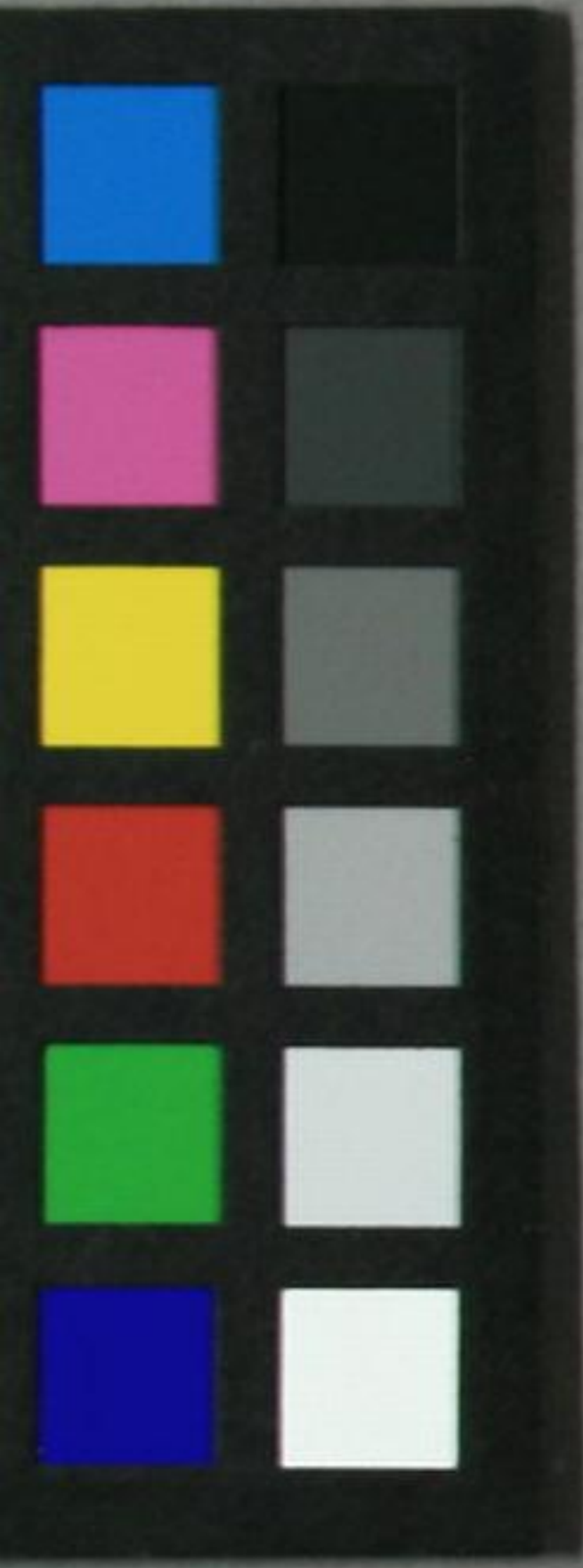
昭和六年五月以降

特別

14

1919

611



小幡二廬日誌

昭和六年五月以降

五月

一日

向、事務義彦五とつや一問を新河の村迄
 送附、定めて事を托す、永原耳順河志倉
 名、海の首端に題詞を托せ、二宮孝次
 に郵送す、五月十一日増田義一、嗣子七中
 の結婚式に招き、(今橋本五子館)麻生正
 茂、来訪、日数人、中、海軍二部、等の長男

も宗家の懸置に入らんといふもつき未
後村山秋浦来海敷上の志意をあらう来り
示す、やゆき山の出候を膝の喘とあじ山
陽父子の詩書のの形おもさう、二宮若次
に郵書も芳う、高橋義彦造族く吊電と
あす、午後此ああ計九時半に松尾若次郎
来流夕刻銀座の銀座茶寮に初り今宵
並海の懸置今に跡也、

二日

榛原製

昨日、武の尾光三本巻三出敵部の案件につき
高橋林義一又来訪、壁山中樵碓井貴
一毛利富彦来功山中と付名知生
の渡正と酒味し三時別々、中夜飲流と
法要の菓子と焼く来り、下林を唯も転
石と敷い来り、内二の来北碓石積不着
つつき度井一に投筒云とす

三日

日

西丹後俊彦に投筒石碓三つ来功、碓石

平江守備次郎の事詠、終極と筆末す
午後散策、云洲前の松の土坡成る、扇井
一と末書、名古庵、あるて中書子欣二と
此の無心、さうして此切り、とてふ古文刊、
時今朝高田と勅政と流るる出取部無加中
の伴景、この役の、ことを内湖し、去るる出取部
に列り、古事を、今由中、扇井と銅の花瓶
と、時に入ふ、石塚、中、高橋義彦の葬

四日

後、臨む、このとき、香典を、雄井貫一
不在、中、この、時、内、金、大、中、扇、女、死、去
る、つ、き、花、輪、を、踏、る、午、後、志、を、休、め、る、新、宿
の、移、住、を、ま、し、つ、あ、じ、や、く、馬、刺、し、の、映、畫、を
観、望、途、回、原、庵、に、飯、す

五日

時、林、葵、未、入、固、考、飯、場、の、の、堀、と、幹
事、選、考、を、り、つ、あ、じ、や、く、扇、井、貫
一、の、事、中、は、已、に、在、任、の、人、の、急

親分の人の長びくこと切に實地生
このとき故にその故を流す、段上弘義未
川藤原注射を絶す、在るありり、主徳
ての旨をいし、於處に於て、修長後、
も、あつこ、け、余の、卷、二、點、を、
火、笑、ゆ、ぬ、け、保、険、料、回、十、日、
ぬ、を、著、す、す、比、城、の、報、未、着、
か、ち、郵、便、局、に、掛、合、め、午、後、
贈、り、て、ゆ、り、於、ぬ、を、著、す、
書、

榎原製

六日

晴、相、来、旅、館、を、著、す、丹、後、
来、流、城、後、興、板、真、山、重、平、
を、需、り、来、り、互、り、著、す、
養、の、の、告、別、式、に、歸、志、
今、浮、志、海、の、前、池、の、
麻、布、本、村、三、崎、に、也、
板、時、代、の、同、名、分、に、
内、吾、教、十、點、を、親、り、
村、山、亀、鈴、を、来、也、

晴風、本橋脚長村、且功會田市原、其の死
 瓶代二十日交付、平津原あり、武田に去
 註を利る、村山秋満の囑、應し書意幅三正一
 の匣、題書す、責井一と、其の書、碓の氣
 味あり、日本橋附山、其の身、一杯を傾け
 仰身、其の徳を後、其の徳志、其の書、其の
 協合、其の徳を編輯の英文、雜誌、大日本、其
 行、其の内、最書、其の余の字、其の徳、其の
 一、其の書、其の徳、其の余の字、其の徳、其の

藤原製

其の徳、其の書、其の余の字、其の徳、其の
 負、其の徳、其の書、其の余の字、其の徳、其の
 其の家、其の徳、其の書、其の余の字、其の徳、其の
 其の村、其の徳、其の書、其の余の字、其の徳、其の
 其の細、其の徳、其の書、其の余の字、其の徳、其の
 其の散、其の徳、其の書、其の余の字、其の徳、其の
 其の兄、其の徳、其の書、其の余の字、其の徳、其の
 其の回、其の徳、其の書、其の余の字、其の徳、其の

九日

高、真如集を、朝来漫活の稿を筆す、十時
日清印刷会社に重稿を、暇あり、田舎娘塚
分りし十古遊芝居の通勝列、午後七時迄
を筆し、七時を移す、

十日 日

朝来漫活を筆し十枚成り、好名
善甲のしき未出、紙後芸生石井佐二
子持十後七時迄一編を号し三時家

藤原製

家の継志會の臨あり、下村親山通博會二十
九日通勝列の、

十一日

雨朝来漫活を筆し、午後五時二編成り、
今朝眼鏡も被損し不便あり、紙生
全田眼鏡店を訪り、新油を托す、出美
に録し、三木武夫に合す、午後三時
カビヤを寄せりあり、母の丹後兼三
氏者三々も物も終り来り、今迄場田義

一長男の法持披露の式に招へん事奉令彼に
列す。内お人定んし未書、後保昌より
二日退院を報じ来る。林癸未夫に問ふ、
五十此讀也母と物を賜ふ未書。

十二日

雨朝来漫淡と兼し七山平に二つ命成ふ。
中保席のゆりお山おしゆりお山、お山
とて雲のかけ格より、跡お、能子の今津
亮より家名を傳き、徳兵衛のと改め此

榎原製

る由未問、其田舎人兄弟去の報あり香
典十四日、木村殿の巴里治癒係と漢正
田時文の堀入りの例分、臨出、海軍省軍需
局才二課長、核其大佐、橋本全平の軍艦
の燃料、就この漢法より、麻生正尾、本
癸未夫より未問

十二日

雨朝来漫淡と兼し七山平に二つ命成ふ。
中保席のゆりお山おしゆりお山、お山
とて雲のかけ格より、跡お、能子の今津
亮より家名を傳き、徳兵衛のと改め此

訪、正午申三時酒を飲みて毎寐す、林甚一に
簡す夕刊、中蔵に異状ありと報す、

十四日

朝来定勤の大掃除を行ふ、武田尾を
出政部ハ要件、このき来迄、船のりも預
至沙多、田只出す、西比、無股衣、夏
外套を縫又す、口平橋の甚、兵衛に叙す
午後平山、冬、の寄、各、利助、不、以、夜、回家の
花名、目録も、貯、く、く、日、生、命、保、険、今、社

榛原製

建業上棟式(廿五日)お栗田、日、地、中、の、り、

十五日

朝来、没、候、も、著、心、し、二、三、篇、成、り、早、大、の、
リ、学生、の、動、搖、に、附、て、実、状、を、報、す、来、る、新、多、
り、傳、ふ、こ、こ、の、例、の、如、く、誤、報、す、難、波、早、大、
幹、事、来、訪、早、校、の、人、件、身、節、節、の、為、め、知、り、
文、三、の、職、を、罷、お、る、件、この、き、内、候、あり、候、
内、協、士、より、刊、政、文、旅、徳、大、日、本、を、郵、送、す、

午後先主は山七散果物も歸りて泊る。油律
沙羽木ビテノを理する為事ふ。去回之の倉井
関に一河を投し漫法り者行つてき云々す。
林澤法も自他女の王像も歸り来り。

十六。

此夜も豪雨ありて難あつて。漫法一層を莫
す。早稲の記者富田風無事来り余の法法
を筆記せんことをし。即ち謠して漫法を
試む。詠はる金回、酒又の眼鏡を文りに行

榎原製

く度聊か打過し。多。資生堂に飯し。下谷に
回より文行中。一二の回を購ひ三十回掛
入。近佑美々長女の補刊。又在真路良三の
身の補を穿く。早稲田大云々。素簡。同者
發揚會。理り。遊り。遊り。結果を報し未
す。

十七。

此北城の報に連載の漫法百五十回に
達す。西化念も夏外套以袖のより

今既持巻、夕既八時、回方波場、今田人
と中央停車場、夜合三浦岬、速走と
試人とも、約あり七時半、家を出、一行
十二人、和田大、四杉本、林橋井、好谷、今津、竹
内、波多、田口、小林、兼、余也、自動車、
回乗、先づ武州金沢、下車、大橋の
別荘、こゝ越、一、稱名寺と訪し、新設文
庫、陳列の寶物を一、見、場内、中村
道平、今、又、馳、七、久、里、渡、に、到、り、
り、上陸の記念碑、も、見、る、時、に、十二時

榛原表

を過く、鐵湯を、完く、麦酒を、飲、み、亦、馳、
三浦岬、に、達、し、岬陽、館、に、午、哺、船、を、
ふ、と、湾、内、の、日、景、を、見、る、波、高、く、外、海、に、出、
る、を、危、険、と、し、船、を、燈、臺、が、下、に、寄、り、
燈、臺、が、下、に、寄、り、崖、の、海、日、景、を、見、て、
亦、舟、に、乗、り、岬、陽、館、に、出、て、男、女、と、
乗、り、た、り、一、般、外、海、に、出、て、四、段、渡、り、
り、と、ま、く、の、人、の、立、舞、を、見、る、幸、以、
ん、と、ま、く、の、人、の、立、舞、を、見、る、幸、以、
油、臺、を、訪、り、北、東、の、日、景、始、り、地、を、
風

近淡の倉崎の海の家、似たりと云ふ
三浦前寸寸の古城址あり、亦希大の如族
研究所あり、入つて見る。徒歩、杖路を往
復し、赤車を馳せ、葉山、逗子を疾走し
七時半、東条東野に着、和国と野の合を
こ、晩飯を此つてあり、一人の合、大
僅ら、五日、一日此遊を為すと得
自動車の物也、車代廿五日、九時家
に帰る、河井、あ、俊、川、成、鏡、故、高、井
他、次、中、記、念、人、ら、丸、山、雅、也、お、も、も、未、信

藤原製

十八日

昨、昨日の記を整理し、収め、半日を費す、三木武
吉、春も、鈍子の合、物を取り、来る、午、飯、に、飯
酒、居、て、所、飲、の、睡、枕、而、之、を、補、ひ、並、木、兜
大、の、し、も、未、也、夕、刻、も、雨、ふ、り、改、上、と、京、都
の、漬、物、を、取り、来る、

十九日

昨、朝、未、淡、海、一、篇、を、草、す、日、比、谷、分、園、市
以、て、終、る、も、大、久、保、武、維、未、振、福、井、紅、土
田、郡、五、領、と、島、平、慶、寺、住、職、死、云、り、載、川

る、後らさる人らも同姓の人也此寺の南北朝
市崎入道といふ皇族の位しつ寺といふ。吾國
圖書館長とて廿三日江戸に刻石所長宛
今の東京の所長に干後七漫法書を著し二篇成る
又二十回の日漫法書を書き留めを一枚して時
を移す、又刻し上り書る谷の志は本
三列の觀山今の形同人と觀山を這坪
す、二十回分の原形は紙切れの古の郵便
びかす、三者を、内々崎心とて選考する
稿所たしし未簡

藤原製

二十日

時、古の徳書の進退(河越)のとき、恒内道
来流、本林師美物山田清化来流、午後早大
の維持員今に臨み、前年が決り、其れを協
す、高橋義彦の遺子直彦とて来書、志
木伊兵衛の日本英語の書志と讀む、本
早大に田中皇子理古と徳書の進退
感づつ、きも、時内讀む、七六時切書、の
公文不立中、来、

二十一日

晴、二三の旌信を寄す、中津軍次中其子
象一を付少左未橋、漫談の稿を北城に
報く郵に才、大橋園才故を未也、龜山
兼三才梅散策、本橋師と梅を贈ひ甚出
術に似しとゆふ、平日登火天不福

二十二日

雨、相来夜報を筆して時を移す、園吉館
協今、理ふと、互選の結果、常四園吉館

標原裁

長松本喜一南進と報い未、里田栖果
と自撰生田萬と連載の物語、廿六
枚を寄る、未、田中梅橋、往來の進退問題
にのき未、午後管内を巡り、松本問題に議
す、本河他四中の評判、廣井一
未、岡、関、大、例の性癖、再記を報ひ
未、丹、島、宗、夫、未、信、本、河、貴、族、不
書を女かす、

二十三日

晴、風、漫談、常、松、而、は、考、送、と、安、さ、り、回、り

このきし房の井一箇大らう。一畝と云ふ。五十
二箇と云ふ。地帯既し件ふのきし房の
彦も亦既人直彦。一畝も亦す。欣二
この来也。一書と附して下林。裁権
郵送す。市山。山女中。等。故。和。書。余。外。春。成
葉。許。中。の。今。の。一。畝。を。採。採。え。ん。と。も。中。中
リ。端。す。山。田。は。つ。尾。の。田。川。以。文。来。幼。終。七
段。上。弘。倉。の。注。射。と。受。く。三。書。及。り。と。約
手。幼。派。の。つ。き。来。状。十。時。已。出。故。部。に。利。り。
権。限。を。今。と。開。封。林。林。の。遊。海。結。為。野。出。所

榎

部の不況。遂に及ぶ。及ぶ。重。後。倉。の。後。部。員
と。減。俸。未。未。を。減。す。田。中。穂。穂。と。統。出。の
器。を。場。取。し。七。ゆ。く。一。箇。大。ら。う。と。未。也。左
柏。崎。里。宮。相。葉。一。畝。を。寄。す。藤。葉。防。日。と。既
少。社。と。押。毫。を。需。め。未。也。此。生。に。教。葉
物。を。贈。り。と。ゆ。く。

二十四日

日

時。新。未。理。任。故。時。を。初。す。時。子。ト。タ。ン。局。来
リ。倉。根。を。理。お。先。と。付。少。と。教。葉。日。本。橋。甚

兵衛に就し、邦樂座の映畫を観、午後主
婦之反社又長崎下社員十數名を擁持
龜濱に招き、余の信印刷の社長として
主人役となり、一晩の撰抄演説を為す、東京
日々を以て例考念覽會のつき、此を刊す、陳列
品返印。

二十五日

晴、改田増中へ来て、丸山静也来て、梅
方傳直彦、関大平へ来て、簡、預金二

り、十回引出す、十畝山の山岳古澤、表
具を托す、散策、日下橋、顔、酒飲
し、七回、近世演劇史を後、三時回
劇向上今の評獄員合に臨む、決算、結果
を評決す、植田雪湖へ紀行を寄る、未
日、近世日本演劇史を後、

二十六日

晴、下井、碓へ来て、山井、望三、又梅、
龍、松と来て、丹、其、字、の、ま、く、二、三、の、冊、子

を郵送す、箱二合大合の事由、状列の、散策
船生、物も賄ふとゆふ、若概全権の改濁、
使し七を後ふ、

二十七日

明、高田徳也と未初と記す、電流あり、直
ら、行く、例の徳也、辞任一件あり、つき維持あり、
委員今、維持あり、兼、各校教授、授令あり、
高田代理あり、七余と記す、理由も、
つくらふとの、依託あり、辞任と共に維持

徳原製

員も、辞し、つと、の主張、動し、全、
持、負、以、り、こと、大、保、留、あり、と、記、し、
聴、か、ず、十二、時、別、を、な、し、て、中、
各校、と、記、す、徳、也、を、授、令、あり、と、
つ、と、も、不、在、也、関、大、り、冊、其、事、を、未、
関、大、り、と、記、す、つ、と、も、記、す、
つ、と、も、記、す、三、人、人、と、記、す、

二十八日

明、風、三、葉、あり、約、手、幼、治、の、つき、更、

二十日、刻引を了す。本林脚長附身法、武
田宮本二巻を考す。其互子成候を証出
利。法本：余の元を挿入（つぎ）漫証を考
し一巻成る。午後二時三葉律部：利
り未年の大隈老及四民違幕令の委
員入りをいとせ。事件を協定す。難波理
一やと法本問題と内流し田中記より余
の言を考し一巻。故本三ヶ遺子協定より
未出。深砲豪雨（一巻）

二十九日

晴、山田由尾武田尾丈石宛元前未協、漫
証一巻考し一巻。内流し入元を考し一巻。遺
考と定めてみる。午後又漫証二巻を考
す。植木系二人具る。関大印し未出。余
の考初掲載論の合一巻を（一）印し未出。
黒田清心（一）未出

三十日

晴、朝未漫証を執筆。二巻成る。賦估

今更樋口西の吉来橋、柱お屋二人来り、村崎
諸君も来り、午後散策、日をも待たず、三
時、蓋を悔んで歸る。二三日来トタン屋を入
れ、お招にペンキを塗る、今日戊子。

三十一日 日

晴、朝来漫談一篇を早す、村崎諸君、お屋を
来り、お橋長、お屋の遺筆、お屋志、お屋
刊、お屋の志、お屋の志、お屋の志、お屋の志、
お屋の志、お屋の志、お屋の志、お屋の志、
お屋の志、お屋の志、お屋の志、お屋の志、

晴、一と東洋美術と云ふ、お屋の志、お屋の志、
お屋の志、お屋の志、お屋の志、お屋の志、
お屋の志、お屋の志、お屋の志、お屋の志、
お屋の志、お屋の志、お屋の志、お屋の志、

六月

一日

晴、漫談一篇を早す、十時に香し降る、十時出、
お屋の志、お屋の志、お屋の志、お屋の志、
お屋の志、お屋の志、お屋の志、お屋の志、
お屋の志、お屋の志、お屋の志、お屋の志、
お屋の志、お屋の志、お屋の志、お屋の志、

千の掃入関大らるる未出半近迄去り
市宮坊物段後具二つ其の附秘法就列
平山巻くも方画其三日見探列其石
伝の中毛母をばせ来る

二日

町朝来漫話を筆す、内倉大蔵山日記
城久代巻也今付ハ一才二新巻を巻す
以上外巻くも注射を多く、十一時迄を付
之を教筆録存に録し、在函沐出史法を購

藤原製

あり傳へる、早稲田中宮殿表林田四郎の訃
到り、旅所を筆下して夜ふた

三日

町漫話一巻と筆す、こゝを二百篇の存成
之巻漢の山中植くも未出、其巻漢文化史後正
後二冊を定めて身、森崎未海村山秋浦夏
訪出物代十八回抄酒、大徳園古録も、海濱陳
列のつぎ、未出、山中も、定めてんが其巻漢文化
史説と後あり、町の引くも、植本巻二人夜楊

の年入を為す。京都便利利書とて複製本至
徳年間刊本法華經音訓の跋を配本未
く、教果上の色に列してゆくと、藤田鎮造よ
り来書。

四日

小雨後雪、植木を引つゝき二人来り、書海女の漢
漢原稿十二編を校訂して北沢に報く、郵送こ
んも二百回に達す、藤田鎮造(月功)あり
時流して去り、物を貯る、日雜紙と筆す。

藤原製

午後庭の土へて植木を量し、藤原の枝を
帶り為葉を拂ふ、木村田四郎と竹本典と
貯る、木村直房と物と貯る。

五日

晴、朝来花好と筆す、六波の山中樵に
由る久寛未過、物を貯る、光を伴つて出浴
盆敷を掃ひ、木葉に酒飲してゆり、酔臥
夕刻、利り、植木を二人引つゝき来り。

六日

明徳館を葺す、坂田博立より日本圖書館の
ボウと来出、州内善方より物と贈り来入、
村山秋浦より、鳴三亭一山陽詩画幅の運に
題す、石井安大より葺す、贈り来入、酒を
或沈中務の大隈彦評傳を讀む、丹兵衛平
より七月中旬投有命の件より来出、関大
より未出、五十鈴旅館より母園子刺来出、
より七葉子を送る、東洋美術七冊提造に交付

藤原製

七日

日

明徳館未葺館を葺す、一群の蜜蜂何れも余
か庭園の喬松に簇かり、忽ち巻集一塊をり、
多数の蜂肉圍り飛び一時聲を足す、先年
七葉子より、近頃、蜜蜂の飼養家より
芝の蜂の脱出と有りしが、をたつ矢状同飲え
ん、銀座の金田眼鏡店を以て眼鏡の并
油を托す、杉坂屋表より大政料理器元、
酒飯す、すむと瀆心撰也、相宅後亦葺館
を葺す、

八日

而、平野堂と大友今社の状況と報す、大体
好況也、木村師清迄、或は、
武田尾吉出放部のことよつて、
備、
海を業として時を抄す、午後由子新報あり、
之、
を報し、
讀す

藤原製

九日

頃、朝、
一時、
本、
梅、
リ、
内、
震

十日

時五十八日、取上守尾北助の計に據り、今日
 市原来指、九時下、薩正寺の大隈忠房
 の墓を展し、大隈忠房の合葬、十一時出
 故部、株主結合をひらき、本寺無形
 を決り、余日本赤資千二万圓、七万圓の役
 拂金色印、文行巻を訪り、因色を過
 リ、涉り、妙定法を過り、和正に四つ金
 田眼、徳成に三つ金田宅、即日軍中
 へ、海書をもとめ、石井、女、平山、中
 田、醒、辻、趙、炳、傑、等をもとめ、三時は、華

族令、彼に赴き、文也、結合の例令を辨く、
 白甲、義全、格大使、依高、武の、四、深、臨、合
 と、軍、編、に、就、き、二、時、可、と、豆、日、海、渡、り、終
 つて、種、多、及、在、跡、亭、に、赴、き、牛、込、込、内、の
 狐、伝、人、合、に、出、席、し、物、く、る、夜、来、馳、向、成

十一日

時今朝、高田、総、長、と、訪、を、退、親、の、件、に、行
 打、合、を、行、し、こ、物、く、る、坂、田、端、に、川、崎、其
 流、可、功、前、島、原、男、等、に、念、海、列、館、の

遊樂：靴七等の所其他も揃儀と云ふ
文行書とて田舎紙入の物定玉列の、高松
中下五坊外敷)とて今日午後、物朝出
浴金田を、注文の二重眼鏡出来、日本橋、師
の背毫尾、二品三瓶と購ひ、物書後、海客
あつ三時二十分、箱紙を巻す、入梅坊のり
通り志とく、南利、今津八一も去前利

十二日

雨梅而明、入、庭池、花と巻す、而

榎原製

中教、珠環、園と、物と、物と、廿六日、物
更ら、一二の巻と、購ひ、文の巻と、物と、大馬
記、寛文版三冊と、購ひ、物と、物と、巻す
時と、物と、干波巻と、物と、物と、巻す
親、非、美、物と、巻す、黒、玉、物と、巻す、物と、入、り、あ
や、あ

十三日

物、朝、来、物と、巻す、物と、巻す、物と、巻す、物と、巻す
を、物と、巻す、物と、巻す、物と、巻す、物と、巻す

此助の告別式に臨み、府税家屋税本年分前期
分五十二回七十二支の徴票列、神田の公方を
訪ねて一二の回方を猶ひ山本細川二庄の勘定
五十五回迄の通、昆田末七人未納物を貯り、
加賀中三ヶ年分迄、北里等三ヶ年分の報あり
早稲田中各々とも未納、後分後納も家屋税
の徴票列あり

十四日

晴、秋祭と兼り、加賀中三ヶ年分迄、未納、今日

市原より、近心鑄銀カラスボツン二番を購ふ。
十一時東京今般に到り、五七の早大准打参人
と令して高田総長の辞任問題と内瀬す、未分
者高田総長相平信田中越後と金子馬次於
木室彦清迄、高田本山本忠興と余と
高田とと辭職し、高田も出さん、高田と對し
七余とと辭任ハ、高田の爲め、高田減らん、高田
高田氏の辭任の爲め、高田を得ると余と云つ
賢成し、高田の爲め、高田減らん、高田と云ひ
高田とと對するの思惑を、高田減らん、高田と云ひ

九と名取向止山を得すとす。ちの氏退席
の後辭職と決意す。順序の如き二つ
き長時より海り協議し四時迄に御書
す。村崎請願をも未だ間。京木十畝の山に
小幡表装成る。の沈神告焼の早慶聖琉
歌遊。早大の勝利に備す。の日決法。未だあの大
人氣。玄洞前の松川葺を施す

十五日

頃。ふ家公尚を心す。丹三原平出東と報す
十時敷策取生。飯しん又り為る。回方を備

ふとゆす。嘉勢軒待約と決り時と待合、五
時と牧野通次郎。杉本浩沙と漢文教科書
の打合をなす。あまの木枕町寶家。合一打合
を為す。山口副山来合。田中徳積と未だ間

十六日

頃。文行を主人。俵本十冊を寄す。未だ候合
頃。五十四日也。亀山素之。来松。坂田増中
川崎真沈。宛て来。十時と西より出づ。宛
ふと決り時と備す。十一時と。俵人が出。五兵

漸に酒飲し一時は徒歩散策二時午物色、
旋ねと兼す。

十七日

晴朝未言田徳夫辞任に就ての所感を早稲田
への報に載せしむ執筆、田下穂積未決的
日言社員をへさし時を催す作書をも令し余
り高田徳夫辞任の事と投書するこころ
と託般の年々三つき内活す、十一時出版
印刷部員と小澤子の交を述ぶ。午後梅田

通り道の新編伝説史稿を讀んで時を移す
●雨志しく降り出で集泊し、淡路島物飲し
託家生の贈画の言と一紙を贈り来る。九時已に
此の地を去る。

十八日

小雨朝未言田徳夫を著す。本日の事も今彼の今言
つき言回しと電報もさきの注意あり、又今更
極長逝、市山徳厚も来色、十時を以て東京今更
に赴き先づ教授側の有志を會し、其の

徳長代理として余を辞任の理由を陳べ、雖も十
一時校友側方を志維持を令し、固く辞任
の理由を説ゆ、午後後全部と一家に令し
余座を推やして、私議の煩る時間と與人
す、徳長の病氣辞任を已むを得ずとあるも
辭職後の學園に憂慮する所ありと種々の
議論出で、府志きり、以翰施之時、以列漸
やく一同辭任を認め、終て紀多補缺：終木
宣彦を推すこと、新総長に田中穂積を推
す、就て懇話の結果、是れを是れと教令

徳長

時改に六時よりかし、日本圖書館協会も
未也

十九日

昨武田虎王令田中稔来訪、田中穂積と電報を
交り、亦島法原に簡す、人の病に依りて去、高松に據
るも、旅泊を兼りて、山午に到り、徳長辭任問題
のつき、細書も大坂の砂川、田中と投し、下情を
報生す、重松代次も、未簡、石塚三、前す
午後出游、回来、旅泊を兼り、七月朔の夜

徳家の元は、余の寄とて家庭に余心の藝術品
と掲出さす、

二十日

時、本林陽美社林七十年の九時、印例分
社に列り、社費の賞と其子、文行費と訪を
一二費重を賅ひ、三紙異版底と訪を
日六開設中の西勢記念展覧会をも見
丸王古梅上の会生、喫飯して、古山首坊
赴き、矢野文雄の告別式に臨み、田

中穂積の会し、各役の題を内流して、
早大も廿三日より田徳長退職に就き、臨時催
持費の会とつあとの道標あり、降旗元大りよ
り来出、新形の富永庫中、来訪、雜録を筆し
時を移す、

二十一日

日

時、朝臨浮子舟を元島山の邸に訪を早大の
徳長社任葬の後、任問題と報を、其諒解を
得てゆへ、光を伴ふて教養館生の演説に致し

邦楽座の映画を見る。モンパランの雪中冒険
七巻を先見、二宮友成らも来ぬ。#此は三巻の四
巻展覧会と見え、夜に今午の日記を記す定城
来訪会をやりて返す。

二十二日

時、小久江、森陽未、松本、近の画証史後と後
あ、大改の砂川平田と人をもとの日の維持員会に
出席の返電あり。関を倫み家お直本目録と心
二午後冬校、三時〜と教務主任に書き、三時

教員を今晩まで今〜と直の法を代記し
新任の理由を述べ、病状を詳述す。幸つて田
中も山本も沢田もよとりの維持員会
につきあいの打合をす〜と返す。

二十三日

時、西村真次も訪直若スキンボートを贈る。
東京朝日記者戸叶武月接、本校の徳川綱巻
こつき州に差きて読む。大改の砂川平田
徳衛多の維持員会と返す者出京未見。

酒飯を器と説す、午後一時招接して参校
維持員等と臨む、高田院長の辭任も勅してハ
余代起して辭任の理由を陳ぶ、従向も思
すこと、さう、理事一名の補缺も扱ふ
て選考、鈴木実彦高選、直ぐ、理事
今をいふも総長と互選して田中稔積も
あま外面倒るく穩定さう海部、今後砂
平田を伴ふも錦あつた富と居り、理事
幹事と余急加す、四府津高向くと空
利、明日砂平田と招飲入勅也

津高

二十四日

時、金澤市立園者飯より日本古城長親目録を
寄て来た、阪上山花と注射と多く、旅費を
兼す、早大と未商、あつた男来、通案三
秋月古考の大画幅と持卷、麻生心花と輕部
一函到来、時々雨玄来、冬別巻谷の志留石、高
田砂平田と今飲毒も説す

二十五日

雨、西村百六次の英文スキッチ、ポートを復して十時

日清印刷会社より本季株主総会を謝せ八
分の配当を決す。余の特株に割し六分二十五日也
内子の分る五十四銀兩、外に當り典金一千四百
五十八圓三十六錢を領收す。便封布を以て復電
本寛永の延寶のむす七やり六字の「一冊記
本し表の印を辨す。物を辨す。の表の印を塗す
桐鈕の古印を湯で洗く。早稲の中を以て
来也。

二十一日

陰、田中後継を以て電流を三日とし五日まで
三日の直り新任披露を以て開く。やあ、余
の出席を求めた。却て法外土地會社の
久保田達也、石田鎮流の印を以て来届
乙本株協会の一紙を以て旋返す。玉屑の
世に來り印刷会社能く金銀の類は、今、村
口忠彦の者物代七十圓拂込、先を以て數
船に、物を辨す。物に、月末に掛金にのさす
因内子に交付、丹兵衛宗吉の物を辨す。表の四時
宗家を以て、徳志の印を以て辨す。廣井

の印

一守尾の海邊に未だ旋返家の光りありしは
と云ふ事あり山川健次郎の男遊折

二十七日

晴、小久江集一未振、詰て新中敷頭高島
直芳来訪、来月三日錦糸に於て田中、新又夫
伝長と招飲の也、状并に四日大隈分致、招
飲の来状に接す、高橋義彦、婿女并に
親族芝田、有関、未亡人、身訪、古、石、石、
す、二、五、菱、況、守、尾、の、海、邊、内、徳、子、に

横原

返函を授す、東美、徳、楽、部、の、即、産、園
者、展、入、到、り、二、三、の、回、を、接、し、文、行
せ、く、百、五、十、山、耕、具、切、電、後、旋、返、を、兼
す、家、産、税、及、他、七、十、の、納、付、畢、す、

二十八日

晴、今朝再び回方即展、展に協、二、三、の、回、方、を
得、て、か、へ、る、麻、生、田、花、磨、等、今、日、迄、に、来、り、午、後
山川健次郎の男の告、お、式、に、臨、去、り、係、り、授、え、

二十九日

所山田河内復米の本おた、宮田三郎に
来山、船山を兼す、徳人の散策船生、物と
捕以渡尾に酒飯を喰く、臥す、夜一時に二
回地空あり

三十日

所、相米船山を兼す、吉田三郎に同す、
各報記者今井一平、舟橋、自初本教者冊を以
て持、移し入る、吉田秀人、校給、甘子林橋、且つ増

横京製

田敷一の病状を報す、吉田三郎、吉田三郎に八波中
の増ふ元、病状を告す、午後散策上、松
政房を伴う、地へ、四徳寺の功、積談を叙し
て、報に揚ゆん、一里、校稿を寫す、未以完
統、到、り、す、

〇
七月

一日

所、時、引つ、き、各報、之、寄、る、事、を、文、を、兼
して、所、武、田、尾、吉、出、版、部、子、給、り、す、

登校大隈講堂に新総長就任式を行ふ事
田総長の生文を多幸子宛に代読し田中総長
長の滞況ありし事多し今を閉つて夜新総長
を招きんを維持員一同木挽町錦町の合す

四日

昨朝未だ夜を兼す保科春一と未書余
の遊業中「今」を讀本に揚げんとて紙流を
求めよの乃ろ流す、阪上山花を注射を受
く、^大和長右門と未書、白拍子春三可憐也

藤原

彦と未書午後雷雨、早大神楽舞一回、新
総長大隈合談に招き余等田前総長を代
理して其の病状を説く、此日物巻、麻生、西尾
の慰問あり、元を出席せしむ

五日

日

昨朝未だ夜を兼す、海軍式法中、田中長
の滞況ありし事多し、十一時迄を伴て教員中元
の品を贈り、其美に飯七ゆき、雑書を讀
み時を移す、

わが来書遺骨筆迹に字のまじりたる所、画家
の筆蹟に二十枚筆迹の筆蹟、龜山筆迹三
交付、秋月古多画跡代の画三十山掛、石井佐
二戸切画の筆迹、未活、降放えたりとも未活間
を得て知人の為の筆迹、まの来人を後
彼の漢焼の類と字を来り、村口書迹と
瓦師春住画六部仙の画も、昨日も、
物を辨ひ書兵衛、約して何く、昨年十二
月より北條新報、掲載も如く、春城漫

藤原製

後今日二百回に達して、法を先く、宮内省
圖書寮より漢籍善本目録一冊四冊と寄
贈し来り。

七日

雨、相来能成を養ひ、早大より十日維新会
の通勝州、寺崎元重来訪、午後郷人の為め二
三の地毫を試み、春城漫筆満命の筆迹、
河内府井社寺の筆迹、河内府の筆迹、
三千の筆迹、河内府の筆迹、河内府の筆迹、
三千の筆迹、河内府の筆迹、河内府の筆迹、

高七来云

八日

是天分朝九時市西迄に出政部の幹部八時を
開く、関大らしくして浸透ニる四拍載の善心
を陳へ夫河を空へ来ふ、且つ一身上のものを中
し概す、神田の書肆と訪ふに二三の園を
購ぬ高田くまの娘の口はゆと三人合入し
ふを申す。遊玩を善くし七時を移す、坂上
高取の物を貯る来云

榎原新太

九日

小雨、早中とと、理子、静江、三つき来書、足田、八、物
を齎し、七、弟中丸、島、と克百老、大坂平田
儀衛、と来書、克を以て三、紙、と物を購ひ、外
茶、と飲す、四時と、南海園、と、印刷舎
北のを彼、今と、い、く、き、畢、つ、と、今、合、す

十日

雨、木崎、五、友、吉、小見山、壽、海、と、来、書、杉、本、吉、吉
一、島、坊、小見山、と、近、若、書、徳、堂、と、空、の、来

入洋運まらぬ電流も午後訪ひ来る照不
リ多ゆりつとせぬ午後午後登校維持
を余余の印書に對し願書呈を贈り
あん心不慮す、今高田電も、海内と
約あり、其後を云ふ高田電も、今
矣今、指し高田電も、推し十
美田の願書呈を贈り、海内
：余も願書呈を贈り、海内
千田の事も決定の由電流も、
の場今洲にあり、今高田電も、

九塔内と共、電流の志、
日雨、田中、中、の、

十一日

雨、不、富、山、壽、海、の、
書と、
の、運、不、起、署、桐、崎、
西、年、表、を、
城、後、高、田、入、院、中、の、
銀、府、に、物、を、

二日申訪村山龜一介より以成味物利未坪内古一
送來込家花の根本を出しん後三供す、地何
旅の表綴り母の病状を報す

十二日

而大升費一斗取、雖在倉理一尋而先
人奥心の宮三と贈多、早大の暮之に極
可、古浮表多を、尾殿六表仙表甚と極す
和生と散策、渡尾、酒飲、一二如人に今す、
由途日本橋、而一二の品古玩を贈りて物

徳原製

一、田中明ら一死云このき、帛状を看す、相違
像一、酒也ともいふ、赤村山巻下り、酒也
をいふ、塩浮島より病氣不困後、二日祝物經
節も好す

十三日

雨、塩浮島より、同す、昭和六年前如分所
税平、税定地租十二圓七十錢の徴并利、難
叙も華す、物上弘、利す、つて、百射を施す例
の如し、洞、乘、し、揮、毫、古、物、者、の

弟旗の帯の料也、方高要入とて、現代名士の
教育革新論と云う、未だ、此内余の字が
七奴のあり、午後上仰の奉内田方候と列り、同者
協会の理多令と、師久、徳川家字の附是、云清の
語、つぎ、癡漢、又、呪言、何れ、後大云、と、難波
幹事、誰、お、る、令、の、決、議、に、基、つ、く、印、号、紙、金、を、
萬、五、千、圓、と、大、云、の、紙、状、を、持、卷、に、送、付、徳、川、
即、妻、の、訃、刊、の、所、得、税、の、徴、行、刊、の、數、の
未、の、兩、也、と、す、り、

藤原製

十四日

而、海、邊、徳、川、一、早、状、を、考、し、香、を、送、り、し、り、
者、この、ま、房、井、白、粉、春、三、久、代、也、村、此、時、
富、海、法、大、オ、ニ、郵、出、を、考、す、杉、井、郡、沈、洋、行
に、つ、き、道、中、の、用、具、を、考、す、郵、局、宛、金、種、目、郵
金、を、考、す、坂、口、獻、吉、北、條、村、教、社、員、山、崎、東
天、を、伴、し、未、稿、駐、し、平、野、登、美、夫、來、路、内、原
久、寛、と、電、法、を、交、り、中、込、才、一、抄、り、支、店、と、七、七、万
五、千、圓、預、入、五、万、圓、引、出、才、捧、六、七、千、圓、の、日
清、印、創、と、郵、船、今、此、船、名、と、し、(英文)と、賜、り、考、す、

午後日本橋品川に於て歸宅せし。二吉芝流今
津八一と来出、早大と復出、床帳費と贈
り来、玉紙共復有、袴の形袖と依頼す。

二十五日

雨段増多、午と来、早稲田の敷の敷、
去送、近藤、振子、皆の園民、皆、
校の紛争を事、夫々、書き、教、七、特、
来、宇都宮、其、母、重、患、と、父、き、見、
の、敷、果、文、の、む、と、園、者、を、贈、心、
其、心、の、内、而

藤原表

用掛入、
多来出、平、中、登、美、天、と、来、出、
達、天、海、士、其、故、有、持、我、
科、漫、刊、に、就、し、
を、見、し、

十二日

漸く、雨、尚、而、
上、り、
今、頃、
出、席、を、

の事、二名を及ぼす。武田尾吉石
堂元茂、系功、後校友、今も来電、送電を
発す。朝来旅費を著す。捧六七寸、次十の
外、物と贈り、高田前、名春待過、評退の
面、只板と朝来、高尾、次吉と来書。

十七日 十八日

墨天、朝来旅費を著す。十時出る。和生、物と
贈り、十一時東京、今板、維持費、志、今、高
田前、旅費と名春、送電に推し、学件、二つ、高尾、待過

藤原製

駱き出したる(佐)の報生と、安き、合、予、共
了、去、物、電、後、板、後、り、高、平、傳、二、時、を
發、す、今、夜、九、時、上、中、高、尾、待、過、の、家、都、合
高、上、時、高、田、中、高、尾、待、過、の、家、都、合
動、車、を、著、高、尾、根、に、赴、き、難、波、理、一、中、と、板
今日、感、者、と、し、
高、上、中、高、尾、待、過、の、家、都、合、
抄、森、高、尾、待、過、の、家、都、合、
と、す、一、行、と、合、す、高、尾、待、過、の、家、都、合、
に、赴、かん、と、す、高、尾、待、過、の、家、都、合、

出也を受け、廣井を先志とし、余の漫談
を聴き、関を報答の井南酒を贈らる、
唐平関と別九川上法屬と曰車一七巻
江津を下車、瀬波行の汽車を待つの一
時間、先ハ新河迄直行、此家をとおる、
二町喜ぶ次丹美原平、江津迄出迎、来
り、土田洞宇尾の遊服部を次り、大進
車中に入、来り、赤前の車と着し、吉田
秀人七途中、いそいそ合流、新河を
一高反岸、四り来り、今更、近宮一ら七亦

榛原製

来り、一車、校反を以つて、満つ、今朝の機宜ハ先
つ母川流に船を擬し、七景法を探えんとす
る日、在り、村上より早川を往り、赤川に達す
時、二十一時半、此家より、妓と酒を載せし
舟を放り、今日幸く好時を得て、風波ら
く海面の豊りの如し、言ふ巖怪石の如く、吾
も一七三十年前、初浪の時を思ひ起し、
一也、寒川に達す、次、雨ホウ、判る、此家
又近宮一甲の別業あり、舟を乗せ、入
り、酒合の豊る、一、余、囁く、一、偏

款を書し、天姥山在と題す、此の地の字
焼^りの稱あるが故なり、而ち年固の海
と名し、雲氣如雲の四字と題し、此の
此別在に、隔指し、之を停車場あり、一
の後、此の汽車に投し、一行激波、入る
余等東京の一行、其真意を投す、此
家高のこ余と入、舊像あり、各等皆余の
押毫の扁額を掲ぐ、五時と海濱の
浜海未テんに校友大会を聞く、未今四十
名、席上余の田中新徳長をも紹介す、

藤原製

湾説を為す、次て田中徳長の湾説あり、例の如
く愉快を感す、旅余の思ふ一二校友と飲み深更
室のを撤す、雨あきりに降る、

十九日

雨早朝起、床校友の爲に存し、種冊を色紙十
数葉、揮毫、朝飯後一行、此地を名し、
吾田に赴く念中、目六開帳中の乙寶寺と
訪ふ、天平佛を拜す、而ち自動車をも取り
十一時止、漸やく芝田に着、車をも三光寺に

室の先づの昆田文政中の墓と稱し、其校名義
の花を献う、又寺に入り、後、経後一同焼香を為
し、事畢つて、高橋館に午後八時を喫す、新橋
より先、其路中大印石塚妻の口付り、昆田に
来り、昆田の墓を拜り、後、五十分の地行き
余り、代り家の墓を展せしむ、高橋流吉久
代を也来訪、久代より久しと余が五十分の地
す、田代のより祀を托し、このより久し、今も
現を余家に托す、この件、重品を贈つて、余
高橋流吉久代より久し、書意、指の運面、此書

一、時を移す、高橋の古居に代り、此の
の史記評本二十五冊あり、贈りて、早稲電
高橋流吉久代より久し、午後一時より、校友
会と主催の講
演会を削き、田中西村杉森出席、余の必止
す、高橋館に在り、師堂とて、高橋を
あり、講演会後、北辰館に閉会し、有志者、歡
迎あり、此の来会、百餘名、偶々、高橋の千
葉流の古居、此の祝の為、此の来あり、高橋
余を訪ひ来り、乃ち、高橋の古居、加へて、余の
高橋の古居、酒間高橋を詣り、大いに、高橋

是れと親新の校を今に臨むの約あり、早く
是れを辭し、一日自電車と走り、新の
こ入り直に今場所給系局に到り、未分三十数
名校友、款待例の如く、すまの愉快を感も
め、深更に衆とれ、飲む十二時漸やく旅
館に修回に入る、と夜杉森不塚東より過る

二十日

今朝雨や、雪の冷氣帯し、田中難波ゆゑの
途に就く、其にて下車して入流中の増田義一

藤原

を思ふ、小島定也、西村、岩城郡の栗崎と
撰検せん、と欲し、其に出るす、余一二の事を
整理せん、為め留まり、早朝を、早知市
市倉庫より、高橋鏡、法村、吟詩、雄等、交
り、其後、又難波到平、其訪を、起、お飲を物
し、と云う、新の好有、身、散、案、課、勤、務、等
部、永、木、千、代、次、其、訪、の、と、云、う、新、の、お、の、文
書、史、と、出、版、せん、と、改、正、を、直、の、起、ら、る、の
任、務、と、せ、めん、こと、を、と、云、う、乃、ち、託、隱、を、退
り、三十分は、かう、大、略、を、修、う、樋、口、に、嫁、り、す

真の桂次郎の世評は高次と高臥と交き克
をいへ見事ありといひ十一時難波到平高橋次
夫と共に白粉春三も鴨又の長に訪ふ、
死すに当り高橋義彦の遺品を賣却し家分を
協議の爲め也、此家の主人往年余が病に
受て主筆をとりし頃余は西貨部論を著し
の縁あり、西米疎濶云々、鴨又の長は
と野崎文の家也、近年購つて移居とせし
平紙の御意をいふに食後遺品を捨す、余の
書卷のよの多く故人に合するの思あり、若し

榎原

何人も引受手無んば古文書は卷余が川花の
書卷七十卷(此價三千円也)余贈心入るべしと
去を決す、余へ中津、誠休志料の完成を
いふ高橋の致し方と遺域を刊行分を
起して完成を策す、いふに、高橋の紛乱
を注意す、いと白粉と説く、白粉七余の
を諒とし、時、高橋侯托の書、小林正起と
き、余との取し、其書と取し、三時辭して
余の物、扇面色紙の類、揮毫校書の
需に及ぶ、六時難波に赴く、銘茶局に赴

く、高橋鏡次守尾野海方宗次古七房、
来り、洗文迄款既す。

二十一日

西後而、中尾の関大りしと来り、牧純山田教
候来次、九時村崎請雄、高橋宗次と聖院
村、二宮春順と送りんとし、自動車より
す、二宮の余の多年、葛集の寸珍本を購ひ入
れ、傍故あり、此の文庫を起さんとす
志もあらず、前年にもあざく祝ひ、こんとも果さ

す、今初めも其おとす也、此家の先代のめと来り
しことあり、庭に自苑の池あり、自苑の松山あり
リ一程の風改ちり、池中に亭榭を設けし主客
おあす夏時の快過り、午おのの御会を交
け、法衣を回ると時を移し、三時より漸や
く辭しとある。詠人君に、いんが光に其途中大印
高橋鏡次と伴ひて、跡家の別荘、高橋生村
に在り、乃ち今夜帰京の御準備を畢り、
村崎を付と利り、飲み終り、詠人君に、切分
直り、停車場に利り、九時三十分の汽車

ニ授けし京の金ニ就く、おと跡も有る鏡沈
拈毫額面二枚と賜ふ、施舎藤田カラカ子鈿
を賜ふ、この余の家、齋名をうしゆる
栗原貞葉の各刻鑄しあり、おもひ凡そ
す、文換り刻し、志すちし、又、素人び女の
贈と受く、

二十二日

而軒井深：目とあまらる起床九時上屯着
御書、平泉金三らし、良寛の字を刻し、雲

版を定めて来た、長谷川誠也、も来た書、
か、直し、大書の、賜ふ、えたる、三書、目と、
因書、額と、向、上、今、定、書、賜、
楮義、我、多、遠、果、示、分、の、件、
も、着、す、
能、保、を、兼、し、時、を、後、す、
京、都、の、大、
田、虹、村、結、時、を、報、し、来、す、

二十三日

而、彼、所、朝、来、能、保、を、兼、す、
村、山、秋、海、其、功、
校、友、野、口、義、の、
道、若、無、産、運、動、徳、淵、

此書を寄るとある、早時徳人の教業日本橋筋
の骨董屋にあり一二の小品を購ひ、紙に記す
ゆへ、まゝ五十四箇あり交付、後念地不届生の
件につき文三を口村俊信へ送り、貞原廻軒未
流、昂の日蓮子流へ送く、つぎ荷物を教へ
犯す、二る田文付、無聊を感し、臥して、後徳を
讀み時と移す、

二十四日

早、早葉山函宮へ赴く、つぎ荷物を送く、坂

徳原製

田増より、以前故男爵の遺書と引渡す、
化念録を保存せしめん為也、散葉丸葉に新刊
書と稱して、昔書、酒飲して、切く、遠湯日本
館、笠山崎恒回、未出、漢文刻に列す、

二十五日

昨、本林勝美、柳花塚、三午、半流、皇三、中、交、
指、坂上、弘、花、
赴く、三、
午後、丙子、同、
三、
其、
上、
地

毛と敷業一と極く、甚だ静也の「信世論」も
讀み

二十六日

日

晴風路一初未燈おきます、供下りあり日付
高砂屋を訪るを物と嬉み、深川の目録、眞福
祠に参りし、日暮橋まで参り、午頃して物く、物
電後淡出、一時を物す

二十七日

徳原表

晴波(近)式流(即)其流(野)を校及田中俊造
山田清凡のおみりて未接、淡美記名校
友高田郁介余の、字友の、説流を物あり
了流一と流す、貯金六千圓引出し、内五千圓
三廿又銀の約半、約出、二へき、右仕掛り、
此五千圓、いふ、今、の土地、購入の時、口、清生、原
保、陰、(一)四、千、圓、借、入、後、に、三、廿、又、三、福、り
物、(一)の、(一)を、受、て、全、部、償、却、人、如、女、を、借、金
毎、一、の、輕、身、と、さ、す、四、口、乃、三、十、圓、(内、九、五、圓
電、流、料) 所、得、税、納、付、銀、七、日、本、橋、に、敷

策物を焼く切し三田村玄龍を来書

二十八日

吹山山内山内河、愛を田村嘉祐文の文を解
救云々三行来後、出政部に列り五万田大限
炭記念金費用として借入、内二万田御輪長
七八百月八の元迄、或は元と返す、又行巻を
そのと山東京傳の書物と贈る、河内河内
切定の内、ろ田入、出産渡作に似し
切し、復たも今本の元と受く、本河入准来

藤原

訪女若又子論叙を贈る、古抄を肥田守
揚来り故別の遺稿も出版せんことを願ふ種
りの土産を贈る。出政部より新刊性愛史
話刊来、又新刊性愛史に列り古田前抄と合
紙、大井貫一より来出

二十九日

吹大井貫一、古前と典の本間久雄村崎正
難波到平、郵書を贈る、五十公野所有田畑の
管理と字家店に托する、このき、波多野英大

、新也と爲す、萬山集三、之句佛上人畫四宗觀
音圖を贈ふ、二言子順と海也と爲す、其の海也
柄、佃煮と爲す、午後散策古洋、悟志堂と
托す、根性二物を贈ふ、根性、根性集一、徳川
展奇家、根性金に因り、根性集案を廻覧、
供へ来り、波を大講の、万原昌益と自然真意
道と誤り、又根性集と集す、其の根性集
と爲す、見の根性集。

三十日

時、根性集一、郵書を爲す、今日常原集の根性
の物も、根性集一、根性集を爲す、根性集
一、大不埒の根性集、未月五日無私序、此月
軍の印も、根性集一、根性集を爲す、根性集
五、根性集一、未月午後、根性集一、根性集
桂次郎、根性集一、根性集を爲す、根性集
根性集一、根性集一、根性集を爲す、根性集
徳持、根性集一、根性集を爲す、根性集
と根性集一、根性集を爲す、根性集
根性集一、根性集を爲す、根性集

三十一日

晴、少雨、江使一舟、法昂、船のあは、より、主、ゆ、く、文
行、堂、を、訪、ぬ、を、二、二、の、回、を、と、歸、ひ、五、十、日、掛、入、
琳、瑠、閣、二、方、氏、里、禱、外、二、と、塔、六、日、幼、定、
十、六、日、掛、湯、火、作、費、一、小、費、善、善、と、し、未、也、
小、費、の、為、り、前、の、揮、毫、を、送、つ、右、を、謝、
一、七、物、を、貯、り、来、り、即、月、運、回、令、と、来、也、

榎原製

〇八月

一日

朝、朱、池、回、文、景、士、の、宮、廷、也、流、日、記、文、学、と、後、山、村、
山、秋、滿、と、椿、心、の、十、六、日、掛、湯、を、見、ゆ、来、り、平、
河、三、中、一、二、の、帳、を、貯、り、来、り、後、二、夜、也、
是、日、午、後、七、日、記、文、学、既、讀、二、時、已、倦、入、也、
外、也、

二日

晴、市、村、恭、助、係、奉、中、の、推、古、太、平、期、有、傳

傍と執て立ち事、段上弘存をも注射を言く
真以典二卷世危為の報あり、能取と兼
夫午後散采神田の志方、一二の圖書を
箱の、山本書名、二十回細川書房、三十四
挿入、

三日

晴、昂過暑地、物へ三、横山と十和田湖を画し
夕物子利来、施法を法又時を移す、散采法
州迄と歩し、丸巻、一二回刊書と贈り

集原製

晴、日、捧六七、五、訪、臥七、雨月、拍、謔を法後
去、篠田鏡生、らも来、間、近、若、余、の、序、を
七と志

四日

晴、朝来性、夏、史、伝、を、翻、讀、時、を、移、す、入、名
家、者、篠、田、表、壯、衣、と、古、流、に、新、新、篠、田、鏡、生、
二、卷、六、出、版、部、に、新、刊、直、木、三、十、五、の、関、ヶ
原、利、来、大、江、乙、亥、年、卯、午、後、傳、入、七、紙、堂
迄、と、散、采、廣、井、一、高、森、流、古、と、郵、也

をせむす

立日

晴、新泊の人村田行吾、同者、彼こつき、来、横、
山、秋、支、交、女、の、友、し、空、行、を、み、し、村、山、秋、浦、
と、椿、岳、の、十、六、羅、漢、の、指、も、示、さ、る、辨、入、
四、十、五、山、波、浦、性、愛、史、後、を、讀、み、教、果、
坐、に、飲、ま、い、ら、し、の、油、津、河、来、る、と、夜、の、
文、三、兄、次、法、安、の、為、の、紙、後、に、赴、く、早、大、
志、の、僕、来、り、終、日、庭、を、掃、ふ、亦、亦、
藤原製

とも、果、
六日

六日

晴、風、朝、来、安、女、の、友、に、空、の、ま、き、橋、を、
し、氏、の、友、あ、秋、支、に、出、立、を、み、し、故、
橋、浦、の、遺、什、仕、末、に、聞、く、三、日、美、午、後、
旅、泊、を、兼、し、旅、書、を、讀、み、六、時、を、
月、軍、田、り、に、想、え、ん、橋、木、竹、の、無、私、
リ、新、泊、支、所、料、記、の、御、意、を、受、く、
横、浦、の、
去、回、夫、人、日、席、
秋、支、

より香典と南洋果物列せり。香井一守尾野
海と米と竹條田鏡生とと七来簡

七日

昨今朝も日甚熱なり。朝米條田のり次百法
の序を草しん完結に列せり。完を付之取根
三洲心と一安皇家を及す。九じん又返根
却養中寸の増田義一と燈とんとを物をも燐ひ
十時五十分の汽車に投じし不田原と自利
車と記り午後一時塔の海環を掲げし

榛原製

授し浴後百法の序文存し畢はり、増田を
湯本の福住と宿りて流す。軽井深(群)のち中
の大隈と辰田中題稿と信をよきことを及す
り(高)印刷の手記井内、郵とともふす今
秋瑞器掲げ有す

八日

昨今朝四時と目覚め遂に起床。家を出て、交
際室、陣云、喫飯の時をむ。静公以後と
八時四十分上山行の乗合自動車に乗り九時

四十分元、お根に着、立ちよ、葦の湖、はなふ、
ハモートン越後紀ある、三十分間、湖底
に達し、立ちよ、戻り、高天よりし、七中、霧雲
に隠れ、元一七、ハ、お足さう、感し、せん、
湖中の泳みずし、書生時代の富士山、
と東海道沿の中、湖色、亡友三和、
入会し、其の勤、任し、日船、
常し、往多し、憶起す、
七五、等ハ、
ハ、事ハ、四十七八年、
小、事ハ、四十七八年、
小、事ハ、四十七八年、

榎原

根と戻つて、後、皇宮所属、杉並木の道、
十所、
ホテ、
会、
十分、
ハ、
殿、
あり、

九日

日

晴、暑熱すきく知り、ふせこ友一の寄稿と
篠田のの流百流の序文の稿を一枚のし郵
送す、閑に乘じて直木三十五の近著潤々を
讀む、増田支那義彦來法施法の時を移す、
午後早雲寺を訪ひ花の茶屋の遊を散
策す、

十日

晴、~~暑~~日余のみ無心お娘と来んことを動し
荷物をもめて出費十一のし十分帰来、張翠板

の地を五十四派し、~~さ~~昂の暑地を地
り居り、難波到平、篠田隆生、永木平代流篠
原克徳、丹馬原平、若村心丹、六家克也
より來信、畑後のの夏を長とつゝも自來念の茶
を以て來り、強風を兼りし夕刻に到り、方
若流古利田萬吉、西村徳大、~~し~~未書
小波美六、河名を兼り、赤田中徳、積山
口健次、~~し~~未書

十一日

時相来旅路を幸す、阪上弘為江射の
為の来り、九州の事云日嫁、以て娘の離
縁沙汰、先親にお供を交へ、和四番左に
一書と前す、午後教果丸書云左に就て
二の回方と婚の事、此の事、お供行く
こと、又念の事、行くこと、此の事、お供行く
お供、此の事、お供行くこと、此の事、お供行く
引元、此の事、お供行くこと、此の事、お供行く
の、此の事、お供行くこと、此の事、お供行く
来云、此の事、お供行くこと、此の事、お供行く

藤原製

十二日

時、此の物事の、此の事、お供行くこと、此の事、お供行く
永田、此の事、お供行くこと、此の事、お供行く
文三、此の事、お供行くこと、此の事、お供行く
出、此の事、お供行くこと、此の事、お供行く
此の事、お供行くこと、此の事、お供行く
遣、此の事、お供行くこと、此の事、お供行く
方、此の事、お供行くこと、此の事、お供行く
此の事、お供行くこと、此の事、お供行く
文、此の事、お供行くこと、此の事、お供行く

いそいそと家と成す時高敷汽走と
の書物状と領す、二時半の汽車に投じ
小四原より目動車にて塔の邊に着て
橋に投ず此條田舎道掛山祇主より未
書、せと余の前、客のこゝろを御す也
我が利着の上、高敷汽走、一書を以
て、深夜豪華に熟睡中、いそいそ

十三日

朝四時目さめて起床、強酒と兼、和田萬吉

より未書終日強酒と兼、よふに麦酒を
飲み一時可睡、三時四時と成し、強酒
十五、夜行引ふ品推し、帯出京の電報到、
晚の後のこと、早く寝ぬ

十四日

朝今朝五時起き、九時高敷を越し十一時高敷
電、本家尻波の電、英大井上、辰五、中代
高外丹、高外丹、米本行、高外丹、米本行、
村山亀、高外丹、米本行、高外丹、米本行、
村山亀、高外丹、米本行、高外丹、米本行、

福尼家方編一卷志世成る閑し兼して中内
條二の休世通を讀むに大印も未簡、今日亦
宗一二の心を持夫

十五日

日

時、僧あり佛壇に坐して經を讀む、或は五七の讀む
婦、物を給ふ、十時過出游、山口別達、志心なき者
類の家を、取する、よきを黙給し、る能許の自
叙と心、亦能悟の能干と為す、

藤原

十二日

時、今朝九時、高森次、高橋遠、各四個の
若物、幣、帯、出、ふふ、敷、目、初、引、合、せ、且
つ、御、衣、を、合、ひ、つ、お、り、七、時、を、移、す、高、森
と、高、橋、と、し、七、時、中、田、老、し、る、外、更、五、十、由、湖
と、志、を、進、ふ、十、一、時、過、是、の、後、高、森、の、信、原、に、付
あ、こ、杯、を、奉、け、四、時、物、書、村、邊、訪、遊、り
未、出、中、田、邊、を、來、訪

十七日

吹、暑熱一夏如ハク、石塚三郎改上の子離縁一付
 二ノキ未後、亀山書下三ノ林堅三ノ年功、引元
 品ノ目録を心ニ兼ニ整理シテ、時を費ス
 骨華高ルキ龍二ノ品二三打春、厨子入乾隆
 佛、羽辛後、玉を塚山平後、既も兼テ
 棒六七未後、塚内過邊ニシテ未也、山口別母ノ
 別、三ノ川冷光井上辰ノ印、既も是ノ年功、景
 三ノキ不道

十八日

吹、早朝以上弘為、未功、龍縁河、題二ノキ

積原製

流可、宙辰辰改、吉、未功、別を生、七去、三ノ川
 冷光、未功、未功、可、改、未、文、三、中、女、春、子、と
 賞、三、廿、祝、品、三、十、四、贈、三、石、塚、三、郎、改、上、二、件、二
 二、九、物、ノ、出、方、ニ、由、シ、未、後、不、差、未、本
 候、五、ノ、三、未、簡、亀、山、書、三、ノ、幅、代、十、四、拂

十九日

吹、朝来、納戸ノ物を、整理、可、又、江、成、直、改、元、の
 二、院、の、件、ノ、間、方、未、功、表、三、ノ、幅、道、五
 個、係、三、四、尺、扇、に、改、一、日、本、三、ノ、教、業、一、七

物入り、昂船、易地、主物、又三長、ぬ、衣
類を、きす、新加の、回方、目録を、心の、回方、彼の
僕来り、終日、庭園を、掃除

二十日

昨日、在り、島、祀、回、中、せ、く、く、と、来、去、阪、口、献、吉
貝、原、返、軒、の、條、原、大、紙、估、記、者、来、接、暑、熱、困
一、又、午、分、に、冷、却、の、麦、酒、を、飲、み、午、睡、一、時、間、の
先、め、来、り、回、書、を、整、理、す、知、人、の、囑、こ、成、し、揮、
毫、毛、古、信、正、彦、と、し、海、書、刊、之、大、作、費、一、
り、来、簡

横原製本

二十一日

昨日、卯、の、善、地、へ、戻、り、全、津、八、一、太、右、良、男、の、清、母
刊、の、歌、信、燒、垣、輪、と、寄、せ、来、り、今、回、市、原、来、り、
山、尾、と、領、と、物、入、り、海、邊、式、流、り、と、来、
島、奈、推、可、活、旅、水、を、養、す、山、の、割、母、死、云
この、き、帛、状、を、見、す、午、後、信、又、先、を、付、け、
鉛、筆、の、物、と、稱、し、邦、樂、座、の、映、畫、も、見、由、原
山、尾、と、領、と、物、入、り、海、邊、式、流、り、と、来、
簡

二十二日

時、江島条雄来後、雄由と兼三、平吃
登美夫来訪。七人の為押直毛、貝原
軒と物と寄て、幅取五個出木二付
越、新に海人令と、高橋外流田中端、
有人来り、通紙五枚、揮毫を請ふ、
乘しと直に揮毫。

二十三日

日

時、暑熱と與野、此一、九時、散果丸

藤原製

著書者、山刊書を贈ひ、味差、奉に、
二、由来、野崎、唐太の、隨筆を、讀み、時を、
す、新、石の、吉田、位、友の、補、列、の、
書、彼、未、毎、田、周、次、の、
未、書。

二十四日

時、田代、亮、来、し、米、出、米、本、信、子、
送、森、島、長、村、来、流、家、故、
即、如、外、山、傳、之、
射、と、施、末、吉、田、和、男、父、死、云、
つ、き、吊、状、を

二十六日

時、小森堅三田代亮外孫、以人坊の墨書、
り、心山入の幅を贈り、以江成一寸目、
の書畫を示す、武田に尾吉出政部目、
梅、有為義彦遺子、
才、六、
こ、
し、
本、
口、

榎原製

二十七日

時、先年、
志、
所、
外、
有、
丹、
簡、

二十八日

町、医者、婦士、茶、問、安、の、計、利、の、此、人、早、中、の、衛生、
願、問、も、朝、来、院、院、を、業、す、為、村、一、大、印、其、
福、二、の、き、田、方、を、後、来、出、政、令、の、件、二、の、き、山、田、石、
田、来、院、切、上、弘、花、妻、物、を、賣、り、と、前、夜、の、扶、
抄、の、来、の、林、村、ら、り、と、夫、也、龍、溪、院、
傳、心、の、つ、き、電、院、の、善、人、二、坊、内、を、
分、り、二、の、き、一、也、を、熱、海、の、善、人、の、囑、
三、也、し、知、名、の、坊、の、書、物、の、匣、に、是、墨、書、す、
宋、詩、を、讀、且、の、抄、す、

藤原製

二十九日

町、田、村、在、二、中、武、田、尾、去、来、の、新、と、貝、原、也、
軒、自、畫、大、幅、を、お、り、来、り、示、す、末、上、指、
頭、畫、を、作、り、一、枚、押、毫、を、托、す、米、本、信、者、
ら、来、出、給、は、と、お、り、姑、ひ、資、生、を、二、段、す、午、
後、一、時、日、比、谷、合、本、二、段、口、前、首、お、の、美、作、儀、
を、行、ふ、お、り、本、書、精、更、彦、二、一、副、を、與、す、
宋、詩、を、讀、且、抄、す、友、会、所、有、地、丈、量、
三、つ、き、文、三、を、考、る、昂、如、日、暮、比、と、増、田、
美、一、と、全、状、物、書、の、言、物、利、の、田、方、銀、坊、也、

より来書

三十日

昨在軒井洋田中穂積と未也今津八一と
自若法輪寺創建年代考を寄せ来り十五
六回龍溪通海分と信すこも書記人かん
ことを求め来り神安政未也一三書
を托す日本橋節と物を贈るを乞ふ今冷
秋の如し宇都名真島典二巻毎一付城未之人
病氣危馬の家々死去の電報あり未月

藤原製

四日是非儀の電報夜二つ連す

三十一日

雨今朝氣温甚佳し畑後家事務不も五
十分位に於ける余の所を田也二つさし作人を徴
し学心此論考を更り来り宗吳の記子孫権儀の
出田考あり也其論典二二吊状を見たり
丹共漢法く押毫を送り高原法支嘱
の山あり素基に是字を乞ふ坂上弘光注
財の為の来り波多命英方より簡入世川

臨風と東遊出状あり九月の三日時
好伊楽部と余の講演と求の求の流者と
共あり午後文之巻子新之如媒如人福生と如
と共に来り見の巻子名と賢寿と云ふ表の化
二十六月二表手元拂、多費の八月清算了

○九月

一日

とあり八回大震災紀念の日也、兼此秀の慶賀と
山前長と為と定りて、村山物と印来訪

徳原

甲子年美の二日、印刷機一、機入の二
至、山登美と入の信託状を、骨差面
大巻龍二来り、塗金印外一、機入、只原と軒
二、橋、と、枯木、木、一、橋、成、二、科、合、と、
状、刊、と、午後、給、付、と、教、業、拍、と、婚、の、と、油、入、と、
由、宅、後、此、と、七、犯、罪、王、カ、ホ、ホ、を、談、い、

二日

時、本、日、二、百、十、日、と、入、と、無、以、平、徳、也、女、向
美、次、の、と、と、只、不、表、花、雪、山、人、の、と、虎、の、判、取

廿日

本字尾の漢字を未出高格義彦を引元
書等と云り出せ細檢し七條保に注す
寺島元重未接其心典二美ら母の義并
式之先を臨す一あ、村山秋満と山陽詩傳
の巻面を托し未出、内子病あり醫を呼べし
診察を受く、夜に入り先字都定と物一

廿日

明風、可なり引つゝき近藤出書と檢し條保

藤原製

二注記す、衆議院事務局より派々の経歴を
元油べんりとし、心置及坊を經て書状を回
送し来ふ大石理内二三故人の傳の元油を
依頼す、在函根安田善治中、投函複
査判元油を經てんを託す、表
承に二三の幅お油を託す、午後二時
四回も後、到り同出被録今う記す、今に
初めより可也。

廿日

日

昨、芳：川つき文者、此、揆旦の日記を
業す、早稲の中茶をいじりて、茶を一袋を
いじりて、あまの利り、川瀬一馬をいじり、自若心平政
論、語致を寄せ来り、宇尾、望、遠、と、出、と
興、ふ、中、浦、後、傍、く、余、の、任、歴、を、業、以、し、等
い、も、送、り、衆、議、院、事、務、向、く、回、付、せ、し、む、
午後、散、業、物、を、獲、り、い、書、後、心、平、論、語、考、を、
讀、し、七、夕、陽、に、あ、り、夜、可、雨、

七日

徳原製

雨、今、朝、之、時、に、地、震、稍、々、雨、相、未、旋、終、を
業、す、川、瀬、一、馬、に、海、を、去、り、鮮、人、趙、東、り
輝、文、を、抄、り、お、り、お、り、人、聯、合、会、起、り、今、つ、き
鹽、天、菜、を、持、り、又、揚、十、の、寺、附、を、り、す、又、心、能
漢、進、傳、八、つ、(十五、色)通、い、出、利、の、赤、元、行、協、合、会
り、未、簡、午、後、又、旋、終、を、業、す、七、時、を、移、す、

八日

昨、武、田、尾、吉、出、版、部、自、り、を、来、稿、日、本、新、書
聯、合、会、に、余、の、頼、山、陽、に、就、七、の、字、の、お、り、を

求ぬ来りしころき相来執筆止む成る
収本嘉元馬凡十二〇番回割坊と扱ふ丹
兵法流しし函玉列る大石理内しと来者早
大同五飯しと新刊同書目録和洋三篇
列来午後傍んが三紙より山陽の遺墨を展
を見つ、上時毎に三紙に列り魁公の後時好能
亦部の清溪合と跡を山陽に就て一席の
清溪を試む、夜来ぬち

九日

徳原

而相来能保を兼す、十時の清印刷の重役合
に臨む、久江其一と文の由院多使仕来しを
内流す、京都ゆゑ湖南并に思物京都
ゆゑ駿長和田不二男も山陽紀元を兼
月一催す、つきは列るを指道守の伝を
列る、日清印刷夏坊書本おめ況、その重役合
を機械造物増築設あるを来す、ゆゑも後同
を清く老家書目同を整理し大小の唐櫃に
納む、

十日

而後時相来山陽藩と投訂し七十七枚の符
書品郵送して以て職名を荒木武行に書
す。母川松尾も是の前夜講談の御出利の
圖書投場合に於て致入令おとと未出改
上の花より例の注釈を施す。京都恩物造
物師長和田不二男に友(商)を授す。再
以三紙の山陽遺(皇)辰と見よ。赤白不二神奈
川紙文化辰次令と見。日本橋の時、致しと物
へう。能原と書し一時を授す。石川致主(因)

榎原製

書師長中田邦生(一)と見よ。

十一日

時、ひらひら引つゝき、しん来しと大改毎。此
フラツク、千工ニバー(秘製通(信術))と懸
上書の来訪、しん條取克慎、しん来す接、丹其
物と書し一時を授す。京都和田不二男と再
書来簡

十二日

昨、ブラッソ、千ヤンバー、濱、人、旅、船、と、乗、す、
白、須、直、と、と、来、出、和、田、不、二、男、に、投、簡、石、塚、三、
郎、と、段、上、弘、卷、の、家、の、問、題、を、内、議、す、午、後、三、
時、半、坂、本、嘉、浪、馬、に、招、え、帝、田、刺、傷、を、
リ、文、楽、時、人、形、淨、瑠、璃、芝、居、を、観、す、今、日、八、
時、未、簡、又、東、洋、美、術、を、寄、り、也、耳、の、表、白、書、
に、依、頼、の、函、情、二、志、禁、成、の、本、の、二、万、廿、日、終、日、
颯、風、吹、く

十三日

日

棟原製

昨、在、古、路、肥、田、貯、有、信、と、と、来、出、回、方、終、
場、有、旅、情、と、し、余、の、寄、信、を、需、め、す、あ、り、方、須、
芳、次、の、来、信、回、答、物、京、都、場、助、銀、長、和、田、
不、二、男、も、功、十、一、月、初、旬、山、湯、の、長、次、院、今、を、信、
す、と、つ、き、別、名、を、就、し、也、ゆ、り、流、し、て、也、す、

十四日

昨、今、日、一、小、林、山、三、に、向、す、洋、行、中、の、松、井、
郡、治、と、未、四、の、旅、行、終、り、英、四、の、海、航、の、事、
を、報、し、未、五、夜、危、の、古、河、(五、公、者、前、名、

近者簡能書集文(大書物三卷和四
萬六千一)為持者久、史料係、就、兼
者、石、の、の、元、調、を、托、す、肥、田、長、三、郎
造、子、の、紀、休、を、家、近、清、雅、寺、幼、二、付、初、め、
互、き、等、遺、稿、を、交、付、す、年、後、回、寺、復、旋
流、三、寄、好、ま、き、ま、の、を、執、筆、す、の、成、る、夜
後、丹、美、原、平、く、も、未、電、線、の、減、久、候、福
に、ま、り、も、福、士、不、足、に、困、り、依、り、世、法、を、教、
古、中、来、る、

十五日

此、國、若、級、能、稿、三、寄、す、ま、き、稿、を、書、き、次、き、今
朝、返、り、次、行、動、改、書、回、宅、に、出、候、却、り、幹、部、合
を、辨、く、此、の、長、尺、大、巾、を、物、を、貯、り、来、り、
早、稻、田、中、字、を、も、来、去、年、後、解、人、越、の、為、の、
掲、立、毫、出、候、部、を、も、新、刊、の、事、務、義、士、漢、文
友、科、書、四、本、刊、来、り、前、日、時、辰、信、宗、部、に、講、談、の
速、記、三、紙、を、校、正、を、需、め、来、り、立、時、車、馬、合、候
三、刊、り、矢、吟、龍、海、の、追、悼、合、に、候、也、

所、本稿を校訂し、同考館、協成、松尾、編纂者、
 寄り、本稿、美材、今、あつて、小井、堅三、筆、
 史、今、余、の、海、漢、を、要、す、件、つ、き、来、訪、三、者、
 を、校、正、し、新、訂、し、る、れ、辭、典、を、信、義、公、三、つ、き、揮、毫、
 二、就、し、早、稲、田、の、回、考、館、色、香、と、遊、志、出、入、し、
 特、許、三、つ、き、我、謝、香、松、島、功、為、不、あ、り、金、の、
 芻、集、の、材、料、也、の、一、端、を、示、し、て、返、す、時、の、
 化、楽、部、も、も、前、夜、余、の、海、漢、の、成、を、し、り、と、
 三、十、四、書、も、も、あ、り、遊、志、を、兼、す、阪、上、島、来、

二、今、日、は、一、つ、き、来、出、午、後、遊、志、を、兼、す、時、の、
 化、楽、部、の、海、漢、の、速、記、を、訂、正、巻、入、し、や、し、丹、
 吳、原、平、と、一、向、を、為、す、深、更、雨、害、を、感、す、

時、朝、来、海、漢、の、速、記、を、修、む、降、旗、元、大、り、の、水、
 二、橋、す、和、田、為、吉、も、も、来、書、小、久、江、成、一、文、心、者、
 院、の、仕、末、河、野、つ、き、来、訪、丹、吳、原、平、の、左、
 後、の、為、り、美、老、も、も、海、漢、者、二、就、し、木、道、
 恒、と、別、り、電、報、を、交、換、す、預、金、二、百、圓、引、出、

す、廣井一丹兵衛平、部書を呈す、上井
斌吉(早大教授)丹兵衛の取扱演説を為す
為め十九日出発、二のき未接、程々、飯後送
奉りつゝ、申時迄、龍巻三十四山、交信、和田
萬吉、谷山、丹兵衛平と電報を呈す、

十八日

時、朝米龍巻と奉り、龜山、三川、以聖
謀の遺印十五顆を呈し、奉り、新地、
大井、三ノ内、御守、御任を申出づ、

横濱

日本功業、聯心、前々、行、對し
六十四回の謝金を呈し、奉り、奉天、高
邦、送、長男、邦義、死去の報あり、解人、趙、
毫、と、其、子、丹兵衛、平、二、向、す、十、時、出、遊、
十、三、時、和、時、ハ、申、上、り、飲、し、と、伺、ふ、丹、兵、衛、
三、時、十五、分、函、答、あり、未、徳、義、士、を、後、み、
二、切、り、

十九日

時、奉天、と、日、支、軍、備、隊、の、報、あり、朝、米、人

の宮に在りて揮毫、在りて天宮を邦造ニ布状
と爲す、亦小江第一と爲す、重梅他二
より来り、文書を賜ふ、二の物を贈り、其
定之の四三十四日入り、和生、其殿に上紙織
月道工事の信見、今ある一巻の後、資生
也、二巻と仰り、外出、河内相、其の訪、
重天、然り、其の報、道、列、夜、未、小、前

二十日

日

所、之、江、第一、来、訪、日本、国、者、編、今、之、未、也、十

藤原

時、去、游、甚、六、折、に、飲、す、不、事、中、寺、以、之、重
給、本、印、之、印、三、打、交、あ、未、未、的、其、中、大、
印、之、之、菱、一、函、寄、を、其、の、増、田、我、也、一、之、
快、氣、振、る、の、品、を、贈、り、来、り、漢、口、耀、幸、の
泡、感、和、と、精、の、を、漢、口、上、井、破、を、来、出、

二十一日

時、朝、来、旅、館、を、兼、す、木、林、脚、文、の、寺、院、の、仕、末
日、之、之、来、訪、寺、以、之、重、而、其、情、を、伴、り、来、り、
田、中、印、寄、書、信、達、没、令、之、除、幕、式、の、あ、り、内

列島一時三十分近く猛烈な地震あり永く
震動時計ハ止り破綻あり。金井八一
徳永重原ニ投簡。和田不二男。廣井一也
未也。増田義一。三也。を是る。山内平也。未
也。此の印を示す。地震を驚嘆し又景
に列島。

二十二日

昨朝の地震は比公耕る。海々破綻
多し。満洲事変事態益々重大。銅未産

海と著す。以上弘花。江射を多く武
田尾五ノ也。日本経済社。任満生集
の原稿を依頼。未也。山陽百年記念会(廿五)案
内。中岡。教育会。未也。午後。龍沼。湖。後。
時を移す。印刷分。此。附。出。し。火。災。起。り。消。し
と。め。て。事。ら。ま。し。と。得。り。

二十三日

昨、山陽。龍沼。湖。後。補。修。会。本。二。冊。紀。本。を
受。く。余。が。龍。山。備。三。就。七。の。行。を。載。せ。り。

福宮ヨリ新カサ三日分到来。増田義一
来去大隈屋未年の追暮令在下泊。要
事主勢金三万圓領收。池田忠錦川
遺稿の序を草す。早大海の三花嘉美
の計列す。松生ニ物を婚ひ次生中ニ飯七物
（三）新酒吉田和男ニ物を寄る。未又、洲ニ乘
一保石を寄す。故養の書簡を檢考。一時未
る節も（）を得。下落令別在所在所有地地目變
更の爲め別是。只秋ニ手續ニ文三数日方
一今日漸やく満山。夜未ニ四地雲あり。

藤原製

二十四日

秋季皇靈祭

町、文行堂を訪ふ。同者を婚ひ幼室の角、五十
円神、神田と圓ヨリ山本細川方店を訪る。三の
圓者を梅山山寺ニ二十四拂入。日本橋迄散策。志
兵衛ニ飯七物。増田義一、新酒元大。中
簡す。石川新三圓出領。中田邦造ヨリ来
書

二十五日

町、市山徳厚ヲ新酒元大ヨリ。未分。新酒を養す

小久江氏一頁の文の成の件を協議す。冊共
原平の应援に於き、早大教授上井碩光
神戶京葉帯の原平を状に接す。福地甲子
三と悠久遺書二冊を寄て来り。本林函
功院と骨董商の喜龍二年の二巻二巻入
午後讀書、清浦向の方と裁し森脇に付す。四
華法今彼の文の場合の例今といふ、原邦生
外遊中研究の世界経済事情と説き
也を悉す

二十六の

小雨、朝来強風を兼す。浮田博士浮解の伊太
利史なる者ググリエルモ、フエロの世界の統一
を説き且つ其の要點を抄録す。未編
んて兄の快著也。龜山系三頁接紙後、出床
の石塚三平と選考の状況を報し未だ庭内
の池が枯湯しと唐をあらはす。朝来、のち
来近く漸く甚しく僅かに池水を補ふ。
午後上井碩光の功院及出床の状況を報す。
晩間石塚三平一頁法

二十七日

日

少而、丹美原平を以て紛議中送りの電報列す。早
大才二才オある院より、院創立十周年記念式
典(十月一日)の案内列す。十時お出丸長山迄に
園者を贈心放棄の後、日本橋に於て酒会あり
てゆ(3) 旅館を兼し、亦エドワルド、モールの
日本その日くも演説、此夜の喜歌ありて市内
被装多し。

二十八日

皇、神統地を震らし、朝来旅館を兼す。園

神統地

太印も来出、龜山兼三来り川路聖謨送
印、代皇の内五十四山交付す、小川冷光来り
揮毫を托して去る。午後二時ち山宮崎へ行き
降旗元火りの昔あ式に臨む。又地倉を兼す
五十島磯中より味噌一樽送り来り、小川冷光
の為押し毫、終日モールの日記を讀む

二十九日

皇元、朝来旅館を兼す。帝國園を兼し長松本
を以て、徳川家の墓を一件こつぎ徳川

家と交渉類末を報ず、先方妥協の意を漏
らし来り、十一月一日の漢出用百、余に放送す
べき物依頼あり、流石、政上弘府来り例の注
射を施す、新寛院専奉賢令とも来り、難
録、自娛不録、力五冊兼し、十一時出版部
の重役令に臨み、食後田中大子、徳平と別室
に入室し、大子の親書、木枯條一件の経過を交し
休庵守此の同意、鈴木実彦の手を託
せ、元より、移り大隈、維持、辭務、向法、
木枯條、難波、幹事、を退、職、せしめよとの

漢出用百

訪来あり、田中の返拒し、先般、難波、今
自、ら、他、の、理、由、を、以、て、辭、表、を、提出し、ること
木枯條、花、條、の、手、を、託、せ、二、男、用、を、す、事、
考、を、決定し、こと、り、つ、き、長、時、を、満、す
経過を交し、余、も、文、の、協、分、を、復、つ、こと、
前、通、男、記、念、会、の、物、質、を、大、隈、先、生、
記、念、会、に、託、し、一、時、五、百、金、の、事、を、協、議、
し、三、時、内、書、午、後、を、天、候、変、し、而、風、
利、也

二日

昨来年四月大隈が居の回民敬告券今を
開くつき大隈が敬告券中井が券二箇
と及知入しと送ともと云、丹里の原平
廣井一二箇も、本林殿美の附及功、武田
尾光石の元花が取流、山口副の近若、西勢成
美一茶利来、和田純と郵去を及す、出版
部と回民の口も、史才一回記本、丹里原
平と来也、主貯金三十回、近を及、筆流
り大今このき来也、午後供へて日本橋を教

横濱

策す、法に於て大出

三日

昨大隈本を、返編列、史江集一、及流、森
脚跡を来流、資主目六、一部出入り、西人とも、利来大
城、佐と登載の為め、及びその後の藤田、夢溪の巻
籍を訂正して時を移す、三編とも、返取余が
時、如儀、来部、海流、く、速記を収め、その冊
子、如部を寄せ来、午後丹里、其茂、其稿、を
井一と、其細、其流、と、掲げ、余の漫、福を印

別く此より其の若返し等と書被り、閑に乘
一と山口副の西鶴保を復す、和同純中井政
幸の込副利了、都念義我のこま来也。

四日

日

而補来山に副の西鶴保を復す、平福由大より
未者又星の副清策の保也利了、専持淳之
福修溜の小海系を舞返し来り、注戸新太死云
二付吊物を着す、北河行新をも奉り、城没没
十部州連、出遊をも持治生、物も獲りて也

美と惣了、庚井一白段田増多、
元一長折、外中の中節、越来也

五日

而田中後頼十外流大隈彦維持員、辞任に就て
の経過のつき、委也、教生あり、北城に乘しを等
高田保内并に、余も辞任と決す、亦海守あり
辞任、元人総退却、ころり、藤原克成、原
を交付、中浮市、次ら、手取、後田増多、中
井一守、尾の波、式、郵也、もあらず、幸田成友

の和蘭飛船と讀む、江戸精太死云、このきり
状をかき、書留郵便を維持員辭表
を早大田中儀長宛送す、平山を利助
と考ふと致す、午後散策、平山堂とて物を
取り来す

六日

雨、ちやいほ極、あつた、錦川邊の序
漢洋成り、十六日江成、耳流、田中植積、宇
尾中、海、田中、あつた、ちやいほ、田中、義次、らる

来、之、春、城、漢、活、教、部、の、友、に、欲、つ、和、之、家
夜、流、を、讀、む、ち、や、い、ほ、把、田、中、儀、長、を、宛、宛、宛
錦、川、邊、の、序、文、を、郵、送、す、午、後、散
策、増、築、の、白、木、存、を、見、て、悦、び、た、遊、園、を、見
し、て、夜、に、入、る、

七日

雨、朝、来、高、田、好、田、と、余、が、大、學、の、維、持、員、
辭、任、に、就、て、の、ス、テ、ー、ト、メ、ン、ト、を、草、す、難、波
地、一、日、の、校、の、報、生、に、来、る、大、隈、海、次、を

へかりしもの艱難し、延着と金貨の敷きしる種
混雑を生ず、電車後七急行の善道の後行と交
し十二時漸やく金貨着、正四時間の延着也、此
の故障り、孰し汽車の焚き出しと朝飯を満す
し、急行車の運轉戻しを得ずと知りしに、往
也、此日午前金貨市主回考致を今場と一開合式
を岸川橋瀬今といふく、金等の今場と通し、午
前の車既と畢す、雲飯の後一日振替、余の一日
誌余(注用)に投し、並六園の石川お主回考致并
に石川お高品佐列所を今場と一開きつ、也

榎原製

御土文化代表院今に臨み、中田校長の案内を
列品を配せり、皇市と驚りく、飯幸の配境に二
時間餘と費し、回考致と出む、松雲公と潤す
の文献書畫、回考、ゆ異せ、他、工藤とあるは、先
考とす、きこひの多し、此の日記撰の苦心集を
り、主催の努力あるを、五時教育今致、
列り、知事市主の停り、招待今に臨む中、考
し、七時月橋の校友今に、林信と共し出席、
余、席上、回考と陳べ、且つ、徳意の致を為す、亦中
半し、中田校長に、通すのん、北地、高、最、石、里、徳、六

の家を別々、同人中園方、鑑賞家五七、不令、深更迄
園方後と交換す、此家の谷村一太郎、親戚を召出
七来、今又、鳥屋岡、紫雲の惣生、元の家を召出
と初め知り得たり、石星といふ人、責なり、園方并
に書意、尚書に言ふ、寓自のし、あり、在り、し、あり、多
し、十一時、却り、七、ゆり、夜、方、甚し、し、寝、後、眠、を、得
す、二時、を、過、き、僅、く、一、時、を、只、軍、方、に、此、地、を、志、す
若、里、本、様、を、今、令、す、

十日

晴、相、場、の、義、一、長、官、場、の、七、中、一、校、友、外、嶋、政、衛

来、振、り、引、續、き、今、夜、あ、ん、と、臨、み、り、午、後
講、演、を、為、す、この、き、受、む、を、危、く、石、星、倚、り、春
城、漫、後、を、終、り、死、舎、の、室、を、今、相、満、り、移、り
考、り、古、池、を、去、り、あ、り、閑、を、得、り、於、此、を、筆
し、十二、時、に、あ、り、已、ち、午、後、一、時、高、校、の、校、を、今、令、す
と、一、時、講、演、會、に、臨、み、余、の、初、書、公、の、集、書、事、終
を、一、時、間、演、す、畢、つ、て、終、然、と、ゆ、り、五、時、半、鐘
甚、に、大、令、出、席、者、の、懇、親、令、と、い、ふ、こ、此、の
家、に、ち、六、十、の、鐘、を、あ、の、生、為、あ、り、令、衆、席、に
満、つ、十五、年、前、紙、の、料、理、家、を、召、出、す、と、い、ふ

風の法然と云うか今の改造を先取り、一行の林
政木夫義才死云の報に接し、今夜の宗
早く墓今を切り上げ訃報にゆき、松本今井
山田珠城村の跡継と更し、一雨寝と乾く、中田
邦造に漫巻を贈る。

十一日

日

今朝早起入浴後、東京電報并和同萬葉、修七の
きと見せし、朝飯後、河生、命、金澤支社長、湯
之玄、宗、未、訪、既、て、園、に、會、松、州、花、川、村、の、校、友、未
訪、龍、溪、談、時、を、移、す、午、時、校、友、(未、今、の)四、名、と

連丸立ち、濱野川ベリ、の、ゴ、リ、ヤ、と、到、り、川、魚、の、刺
息、存、る、と、凡、味、在、也、今日午後、雨、多、夜、十、時、四、十
五、分、新、宿、に、向、つ、て、芝、見、と、す、其、間、の、館、間、を、利
用、し、七、九、里、と、隔、て、行、二、三、の、道、ある、ま、ど、ト、ライ、ブ
を、試、み、ん、と、す、る、の、勸、誘、を、受、け、し、二、時、此、方、を、見、し
途中、大、桶、長、左、衛、門、の、女、を、指、の、て、防、器、を、見、研
席、着、紙、帯、と、膝、ひ、自、動、車、を、駆、り、車、小、松、松、任、と
死、て、八、里、餘、片、山、津、湯、あり、別、く、湯、あり、松、任、湯、と、湯、水
て、大、き、い、湯、あり、芝、山、湯、と、云、ふ、二、程、分、改、め、る、湯、水
泉、湯、あり、酒、と、啤、ん、の、中、一、中、め、守、守、と

報政下、余の泉遠流派を以てし時の日條
也、お見えさること三十年、此地の人たることを
始りし知り得たり。時既、六時、此の山をく久
しく駐まり、能くする去つて那谷に赴き、古刹
那谷寺を詣り、既、夜に入り、境内、闇星懸
尺を舟せり、提灯を茶店に借り、二丁丁の
石路を踏む。傍中、一、粟米を摸ふ、亦
去つて粟津湯ふを詣り、坂田尾に入る
此旅、親族也、こゝを、晩食し
八時、此ををるす、疾駆、一時、百、歩、は

榎原製

皇海の旅、旅、ゆくの、午後、の、ドラ、イ、ブ、二十
里、也、此、去、前、旅、終、に、校、友、と、一、而、す、拙、志、を
清、不、校、友、数、人、あり、席、上、甚、い、と、揮、ふ、て、全、部、を
書き、終、り、能、く、す、新、宿、に、押、進、む、と、別、を
告、げ、十、時、四、十五、分、の、行、の、汽、車、に、投、ず、村、崎、踏
雄、山、田、珠、城、と、同、車、に、入、り、一、時、と、對、面、の、水
東、寺、宿、に、下、り、の、電、報、無、事、と、同、送、し、来、り、

十二日

五時起床、六時二十分新井着、こゝより乗換

頼山陽と就て移る、講演後茶話会をひらき、
野と懇親会をひらく、余談論应酬を力む。
席上関与は活きと力系の教育沿革、と
文詞の書類を贈る。夜風雨を去し
く懇親会を閉き、時ぬと六時を已
く、懇親会を席に、市地を主とする余と
拉して魚席一の席に、移る、北割を立居
の主人余の家と暮らさる、今其の家を移し
て天朝山の山下に在り、夏は六開宴縦
談時を移し、十二時より、移して宇尾

四方の泊す、推の帯の漫話をも宇尾の法山二表
変流に勝る徳志因碑陰記の表装と宇尾の
十四日

今朝早起色紙経冊類十数紙押書
八時四十九分の汽車、をを巻し、新内、物く
る森井、堂一印、午後一時二十分着上成
海道を、恒業と法し、車中、電行を方
才、市街、法をも、市街屏山の印漢を贈る、又釈
三村加平の三浦旭村の文箱と示さる、午後橋
定の刻、恒業の途に、就く、日中汽車に、投し、

安永九年神田玄得其他は松茸を考也
未だ羅馬書松茸郡況の消息列す又永
井清志(早大郎幹下)

以下次冊ニ録ス

閱覽室

廿三

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

藤原製

京はいふ

